

総務文教常任委員会調査視察報告書

総務文教常任委員会

委員長 苫米地 繁雄

期 日 平成 27 年 10 月 27 日(火)
視察先 富山県砺波市議会
目 的 学校給食における地産地消についての調査

当事務組合は、児童生徒の心身の健全な発達・体位の向上及び望ましい食習慣の形成を図るため、家庭と学校関係機関が連携し、栄養バランスのとれた豊かな給食事業の推進に努めている。

私どもの地域は農村地帯でありながら、学校給食において地場産の農産物の使用率はなかなか伸びていないのが現状である。新鮮で安全な地場産品をより多く学校給食に提供するためにはどのような方法があるのか、地場産物使用の課題「品質・規格のばらつき」「納入時期及び安定的数量の確保」「市場との価格差」について調査視察した。

視察先は、生産グループ協議会が地産地消率の向上に取り組み農林水産省関係局長賞を受賞されている、富山県砺波市の学校給食センターである。

砺波市は、人口約 4 万 9 千人、富山県西部の扇状地である砺波平野に位置し、市の東南部には山々が連なっており、扇頂部にはかんがい用水の源を擁し、扇中央部には肥沃な農地が広がっている。近年商業施設の進出が著しく砺波地域の中心都市となっている。

取組概要は、学校給食センターの栄養職員、農産物生産者、農業普及指導センター、農協といった地域関係者による検討会を年 3 回定期的に開催し、出荷者と学校給食センターの要望のすり合わせを行い、地場野菜の安定供給を図っている。

学校給食センターでは「地域農産物活用要領」を定め、「品質向上のため、地場産物の規格表を作成し、これを遵守すること」、「安定供給のため、生産グループ協議会から提出された年間使用計画に基づき農産物を献立に組み入れること」、「市場との価格差是正のため、JA 営業部が市場価格を基準に等級に応じ価格を設定し、等級基準表に基づき納品検収時に担当者 と生産者が協議し等級を決定すること」などを明確にしている。また、農業普及指導センターでは、「年間使用計画」に合わせた作付計画による栽培技術の向上や、品目拡大のため、計画的栽培の指導などを行っている。さらに、生産グループでは、野菜の多い時期に冷凍や乾物にし、野菜の少ない時期に供給する取り組みや、野菜くずを活用した資源リサイクルを行っている。

その結果、平成 3 年のねぎ 1 品から平成 2 7 年には 4 4 品目の野菜を増品供給し、地元野菜の供給率は金額ベースで約 3 0 %となっている。

当初試行的に女性グループの取り組みで始めた給食食材供給は、地産地消の向上に向けた関係機関や地域営農組合との連携・協力により「砺波型地産地消の学校給食食材供給体制」として確立されている。

最近では、良質な乾燥野菜の生産や規格外品の野菜を一斉集荷し「となみ野コロッケ」を

製造、夏野菜の一次加工等にも取り組んでいる。

視察を終え、学校給食への新鮮で安全な地場産野菜の安定供給のため、給食センターはじめ、生産者や地域の方々が一体となって取り組んでいることは、学校給食の地産地消率を高めるとともに、生産農家にとっても様々なメリットがある取り組みであると感じました。

我が学校給食においても、地産地消の向上に向けた関係機関や地域営農組合との連携・協力として組織化が必要だとの思いを強くしました。

